



佐久間ダムに流入する土砂の処理工法を検討する委員ら
＝浜松市中区

堆砂対策施設概略示す

佐久間ダムの土砂処理検討

中区

浜松市天竜区の佐久間ダムに流入する土砂の処理工法を検討する委員会の第3回会合が2日、浜松市中区のホテルで開かれた。年約34万立方分の土砂を処理することを想定した堆砂対策施設の概略設計案が示された。

事務局を担う国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所は、第2回会合で堆積量の変化などを考慮し、余裕を持たせて年約45万立方分と設定していた対策土砂量を見直し、掘削(陸上)で年約20万立方分、しゅんせつで約14万立方分とした。

掘削した土砂の運搬処理法について、揚砂場に船で運ぶほか、新たに骨材事業者への運搬・引き渡し、土捨場への運搬などの処理方法を組み合わせて経費を削減する案を提示した。揚砂作業に大型クレーンを利用するなど案も示し、工程ごとにどのような設備がどれだけの必要かをまとめた。

今後は手順の最適化を考える「実行可能性や技術開発、地域社会調査」などを進める。
・環境への影響と対策